

時間 9:00~17:00 (観覧受付は16:30まで)

休館日 月曜日 (7月17日は開館)

観覧料 一般400円、高校生・学生200円

※中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方 (付添1人を含む) は無料



Ⅲ くらべるモチーフ

最終章では、応用編として美術品の主題(=モチーフ)を手がかりに、美術のひみつを掘り下げていきます。同じモチーフを扱ったものでも、その美術品の素材・形状・時代によって表現が異なることを紹介します。さらに、なぜそうした違いが生まれるのかを考えます。

本章で取り扱うテーマは、例えば「つわものども」。源平合戦の中でも最も悲劇的な場面の一つである熊谷直実と平敦盛をモチーフにした美術品をくらべます。この場面は、クローズアップされて描かれたもの(図4)、源平合戦の他のエピソードと一緒に描かれたもの(図5)などがあり、それぞれをくらべてみると違うところと同じところが必ず見えてきます。

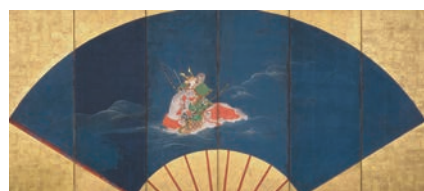
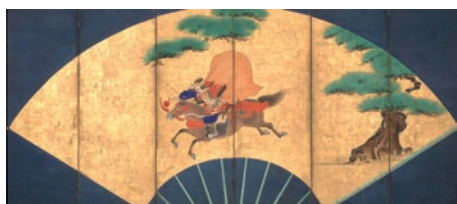


図4 県指定文化財 海北友雪筆「一の谷合戦図屏風」(当館蔵)
※ 展示期間は8月8日~31日



図5 「源平合戦図屏風」(部分・当館蔵)
※ 展示期間は7月15日~8月6日

他にも、県指定文化財 葛飾北斎筆「鯉亀図」(図6)を中心にくらべる魚のモチーフや、仏像や仏画、そして浮世絵にもあらわされた不動明王のモチーフなど、盛りだくさんの内容をご用意しております。皆様に美術を楽しんでいただければ幸いです。



図6 県指定文化財 葛飾北斎筆「鯉亀図」(当館蔵)
※ 展示期間は8月8日~31日

今まで登場した用語でわからないものがあったらご安心ください。この展覧会は、知っているようで知らない、そして今さら聞けない古美術鑑賞のための基礎知識も、ぬかりなくご紹介いたします。

併せて、子どもたちの自由課題にも使えるワークシートもご用意しています。夏休みは鉛筆とシートを片手に、展示室で楽しく美術のひみつを探してみませんか。もちろん大人の方の参加も大歓迎です!



図7

最後に、とある美術品の一場面をご紹介します(図7)。この場面はいったいどんな物語のシーンなのでしょう?そしてこの人物はいったい誰?彼らの表情

から何が読み取れるのでしょうか。ぜひ、展示室で実際の作品を見て答え合わせをしてみてくださいね。

※企画展開催期間中、常設展示室4美術展示室では関連展示として、特集「仏の姿」を開催します。こちら併せてお楽しみください。

(展示担当 西川真理子)

昭和の原っぱの門を開放

樹齢を感じさせる背の高い木々に囲まれて、大宮公園の池を見下ろす小道に博物館の南門は面しています。階段かスロープを使って建物の休憩コーナーまで上ってきて、公園の散策から一息入れようと多くの方が利用されます。

この南門に隣接する昭和の原っぱでは、木の塀に囲まれた広場の中に、ひと昔前の木製電柱や土管、駄菓子屋や井戸などが点在し、かつての大衆車スバル360に触れたり、当時を知る人には懐かしく、また若い人には新鮮な雰囲気を出しています。入場無料で楽しめることもあり、休日には多くの子供たちでにぎわっています。



井戸と車と土管

従来、南門からこの目の前の広場を利用するには、いったん休憩コーナーに上がってから、館内を通り、階段を降りて、さらに時代衣装の着装体験などが楽しめる「自由自在座」や、「ものづくり工房」を通り抜けて大きく一回りする必要がありました。

そのため、ベビーカーや車いすをご利用の方にとっては、不便なアクセスとなっていました。

そこで、今年の2月から南門のすぐ奥にある原っぱの通用門を開放することにしました。併せて、博物館の建物から原っぱに出入りする手動の観音開きのドアを、バリアフリーの観点から開放的な自動ドアに取り替えるとともに、公園内を歩く方からもよく分かるように、門柱にも新たに博物館名と南門の表示を行いました。

これで直接、段差もなく、昭和の原っぱに入るこ

とができるようになり、いちばんの奥まったエリアが、一気に博物館のもうひとつの顔として生まれ変わりました。



外へつながった原っぱ

ベビーカーを押したり、小さい子供の手を引いた若い家族や、杖を使って散歩を楽しむ方たちなども、興味を引かれる懐かしい昭和の風景に、すぐ入り込めるようになりました。

博物館の展示は、時代順に原始・古代からの時の流れにそって始まります。しかし、ほんの一昔前の昭和の時代に戻り、今は目にしない土管や電柱のそばで、手押しポンプを動かして井戸水を汲んだりすることができる空間が、博物館の新しい入口になり、利用者の皆様にも楽しんでいただけることを願っております。



南門掲示板の体験コーナーの案内

(施設担当 齊藤登志雄)

歴民インバウンド事始め



平成28年に日本を訪れた外国人観光客は2,400万人を突破し、今年はさらに増加する見込みといわれています。

観光庁によると、宿泊、飲食、交通、娯楽の費用に充てる金額が増加する一方で、買物に充てる費用がマイナスに転じる傾向が見えるそうです。

いわゆる「爆買い」が失速傾向にあり、「どんな体験ができるか」が今まで以上に重要になってきたとのこと。こうした傾向は、博物館にとっては好機到来！というわけで、最近当館にもインバウンドの波が押し寄せてきています。

1 国内在住外国人モニターツアーを実施

4月2日(日)、大宮公園の桜が満開を迎えたこの日、埼玉県とJR東日本大宮支社が共催し、国内在住外国人を対象としたモニターツアーを実施しました。ツアー参加者は「LOVE SAITAMA サポーター」に登録している在住外国人30名です。

日程が決まった時は、「4月2日だと、大宮公園の桜は散りはじめめるのでは・・・」ととても心配しましたが、今年は寒さが続いたため開花が遅れ、この日はツアー参加者をお迎えするのにふさわしい、満開の桜が咲き誇る、快晴の一日となりました。

参加者は、まず東北新幹線で大宮駅から宇都宮駅に移動し、市内で餃子の昼食。その後、大宮駅まで戻って来て大宮公園の桜を鑑賞しつつ、当館で見学と日本文化体験をし、氷川神社で解説を聞き、夜桜見物というハードスケジュール。

当館では、常設展の見学と、藍染めハンカチ作り体験を行ないました。



取材クルーの前で藍染めハンカチを干す参加者たち

みなさん、日本語がお上手な方々だったので、職員の説明を真剣に聞き、一所懸命に染め上げ、その出来栄にご満悦の様子でした。

モニターツアーに参加した方々の感想は、SNSなどを通じ、参加者の母国語で情報が発信されています。

2 第8回世界盆栽大会 in さいたまへの出展

盆栽の故郷・さいたま市で開催された第8回世界盆栽大会には、各国から盆栽愛好家が集結しました。当館もゴールデンウィーク期間中のイベントをPRすべく、さいたまスーパーアリーナで開催された日本文化体験ブースに出展し、「絵巻物作り」を行いました。

参加者のなかには、子供・母・祖母の三世代で絵巻物作りに挑戦した、オーストラリアから来日した方々もいました。

帰りがけにお祖母様が、とてもステキな笑顔で「こんな貴重な時間を過ごすことができ、本当によかったわ」と伝えてくれ・・・準備の苦勞が報われた一言でした。



通訳ボランティアさんの協力のもと絵巻物作りに挑戦中

上記以外にも、当館では、日本の修学旅行にあたる、台湾からの教育旅行も受け入れています。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック期間中、本県ではかつてないほど多くの外国人観光客の方々をお迎えすることになります。

当館でのインバウンド事業は、まだはじまったばかり。言葉は通じなくても心は通じる！！と思いつつ、今回の経験を活かし、外国人の方々に「この博物館に来てよかった」と思ってもらえるような事業を展開していきたいと思っています。

(企画担当 加藤かな子)